

2025年10月16日

【XCR スプリントカップ北海道 第6戦 / 北海道陸別町周辺】
XC-2 クラスは番場彬選手／梅本まどか選手組が揃っての戴冠、
XC-1 クラスの惣田政樹選手／猿川仁選手とともに「GEOLANDAR」が2クラスで年間王座を獲得!!

クロスカントリータイプおよびSUV車両によって競われるXCR スプリントカップ北海道は、10月11日(土)～12日(日)に陸別町で最終戦となる「とかち 2025」が開催され、「GEOLANDAR」を装着する XC-2 クラスの番場彬選手／梅本まどか選手組(トヨタ・ハイラックス)、XC-1 クラスの惣田選手／猿川仁選手組(三菱・デリカ D:5)が優勝を飾り、それぞれのクラスでシリーズチャンピオンを獲得した。

全6戦のシリーズは、9月20日(土)～21日(日)の第5戦が台風接近の影響で競技がキャンセルとなり、番場選手が2022年のシリーズ発足から4年連続でのチャンピオンが確定。第2戦を欠場したコ・ドライバー、梅本選手と揃ってのタイトルを目指して最終戦に臨む運びとなった。

土曜日にコースの下見をするレッキが行われたが、かつて「RALLY HOKKAIDO」でも使われたハイスピードでタフなステージをはじめ、ステージによっては道を横断するグレーチング(排水口の蓋)が取り外されて大きな段差が生じている箇所もあり、タイヤの走破性と耐衝撃性も求められる一戦となった。

競技本番の12日は6本のSS(スペシャルステージ)、合計29.13km／総走行距離126.45kmで競われたが、SS2の途中から雨が降り始めて、ステージはよりタフなコンディションに。そんな中、オープニングのSS1「KITA TOMAMU LONG1 (4.64km)」で10秒ほどのリードを構築した番場選手組が今回も速さを見せた。



一度もトップの座を譲ることなくすべてのSSでベストタイムを刻んでフィニッシュまでマシンを運んで優勝、シーズン全勝で番場選手は2022年のシリーズ発足から4年連続、梅本選手は自身のラリーキャリアで初となるシリーズチャンピオンを獲得した。これに続いたのはタイから参戦する Mana PORN SIRICHED 選手と Kittisak KLINCHAN 選手のコンビ(トヨタ・ハイラックス)、3本のSSでセカンドベストを獲得して3位に28.0秒差をつけて準優勝を飾り、「GEOLANDAR」装着車が最終戦でワン・ツー・フィニッシュの好成績をおさめた。



また XC-1 クラスは、第 1 戦と第 2 戦をトヨタ・ランドクルーザー、欠場した第 3 戦をはさんで第 4 戦以降は三菱・デリカ D:5 で参戦した忽田選手組が、シーズンを通じて安定した走りを見せて今回も優勝を飾り 2 年連続のシリーズチャンピオンに輝いた。



さらに XC-3 クラスでは、相原泰祐選手／上原あずみ選手(ダイハツ・ロッキー)が 4 本の SS でセカンドベストをマークする戦いぶりで準優勝、こちらは最終的なシリーズランキングを 2 位として 2025 年の戦いを締めくくった。

■XCR スプリントカップ北海道について

2022 年に発足した、クロスカントリータイプおよび SUV 車両によって競われるラリーシリーズで、2025 年は全 6 戦(第 5 戦は台風の影響で開催中止)で競われた。北海道内を転戦、グラベル(未舗装路)を基本として 2 月に開催された序盤 2 戦はアイス＆スノー、中盤 2 戦は全日本ラリー選手権併催で距離の長い SS が中心、そして終盤 2 戦は北海道ラリー選手権併催でハイスピードからテクニカルまで変化に富んだ SS を舞台に競われた。

参加車両は 3 つのクラスに分類され、車両重量の区分が無い XC-1、カタログ重量が 2,000kg を超えるクロスカントリー車両とエンジン排気量が 2,000cc を超える SUV 車両の XC-2、そしてカタログ重量が 2,000kg 以下のクロスカントリー車両とエンジン排気量が 2,000cc 以下の SUV 車両の XC-3 の各クラスで競われる。

タイヤはシリーズ事務局が指定したものを使用可能で、MT および HT タイヤは認められない。ウインターラリーについては、スタッドレスタイヤのみ使用が認められ、いわゆるラースタッドレスを使うことは許されていない。

ヨコハマタイヤ勢は「GEOLANDAR X-AT」をメインに戦い、今年は多くのタイヤメーカーが参入して覇を競い合った中で 2 つのクラスでシリーズチャンピオンを獲得、優れた性能を実証した。

■番場 横 選手 (CUSCO YH ジオランダー HILUX)

【今回の成績：XC-2 クラス 優勝 (ドライバー部門 シリーズチャンピオン)】

前戦の中止によって自分の4年連続チャンピオンは決まっていましたが、梅本選手の初チャンピオンがかかった最終戦だったので、まずは完走が絶対条件でした。ただ、全くリスクを負わない走らせ方というのは自分の性に合わないので(笑)、マージンは常にとりながらも何か良い発見や学びを探しながら走りました。

そんな中で今回は、かつて「RALLY HOKKAIDO」に参戦したときに走ったSSが一部含まれていたので、懐かしさも感じながら、好きなハイスピードステージを楽しく走ることができました。SSの中には大きな段差が生じている箇所もあったのですが、ペースノートに記入はするものの少しライン取りに気をつかいながらペースを緩めることなくクリアしました。この走りには、「GEOLANDAR X-AT」の強靭さ、タイヤへの絶大な信頼があってこそ、ですね。

オープニングステージを終えて後続との差を見て手応えを掴み、その後は雨が降ってきたものの順調なラリー運びで全SSのベストタイムを刻んで全勝、シリーズポイントも満点で4連覇を達成できました。

今年はAXCR(アジアクロスカントリーラリー)への参戦を通じて学んだことも多く、それはXCRスプリントカップ北海道に活かすこともできました。

最終的に4連覇となりましたが、コ・ドライバーの梅本選手のスキルが大きく向上していることも支えになりました。おかげで運転に集中して戦うことができましたし、梅本選手をはじめ一丸となって一年を戦ってきたチームのみなさんに感謝しています。

■梅本まさか選手(CUSCO YH ジオランダー HILUX)

【今回の成績：XC-2 クラス 優勝 (コ・ドライバー部門 シリーズチャンピオン)】

シーズンインを迎えるにあたって、チームの長瀬監督(キャロッセの長瀬努社長)から「今年はドライバーとコ・ドライバーで揃ってチャンピオンを獲りたい」というお話をいただいたので、それが実現できて安心しています。自分にとっては2018年からのコ・ドライバーとしてのキャリアで初めてのシリーズチャンピオンですが、競技を終えた直後は安堵の思いが強かったです。その後に場所を変えて行われたシリーズ表彰式でトロフィーをいただき、長瀬監督から届けられた花束をチームのみなさんから手渡していただき、「自分もホントにチャンピオンを獲ったんだな」と嬉しさが込み上げてきました。

一年間を戦って、毎戦いろいろなことをコ・ドライバーとして吸収できました。番場選手のペースノートは英語なのですが、これまで英語ノートはあまり経験が無かったので、発音などの勉強をしっかりすることで番場選手からも良くなっていると評価していただけました。戦いに臨むにあたっては自分に余裕もできて、いろいろな事柄に落ち着いて対応しました。

私はチアリーディングをやっていたのですが、元々チームスポーツが好きなんです。ラリーはクルー同士、そしてチームのみなさんとの信頼関係で成り立っていると思うので、そこが合ったときに勝てるところにラリーの魅力を感じています。信頼関係では番場選手のストイックさ、ラリーが好きという姿勢を尊敬しており、自分も組むことで多くを学び、一緒にシリーズチャンピオンを獲得できたことで素晴らしい環境で戦えた自分は幸せ者だと思っています。